

注目集める「物流不動産ビジネス」

「物流不動産ビジネス」が脚光を浴びている。1999年にイーソーコ(本社＝東京)を設立した大谷巖一社長(現イーソーコグループ会長)が、物流と不動産をマッチングさせたビジネスを展開して急成長した「物流不動産」事業――。

設立時は、外資系物流施設開発事業者が日本に新規参入した頃だ。外資系の進出に倉庫業界が将来を危惧していた状況下、大谷氏が日本発の「物流不動産」事業に成功、一気に成長させた。昨年から国土交通省のwebサイトに「物流不動産」の定義や変遷、隆盛の背景・理由などが掲載されたほか、大学、不

国交省の認知で勢い

イーソーコ 大谷会長講演が盛況



動産学会などにも認知されており、注目度がさらに高まっている。

物流を革新できる

20日、大谷氏が講師を務める「物流不動産セミナー」が都内で開催された。参加者は定員を超えた。会場は超満員、溢れた参加者がモニターを設けた別会場で講義を聞くほど盛況だった。

IT関連事業者が受講。大谷氏は、物流不動産事業の成功までは「失敗の連続だった」と話し、「物流不動産ビジネスは物流を革新する」と強調。「今、物流はレッドオーシャンだが、物流不動産ビジネスはブルーオーシャン」と自信を示した。

今こそチャンス

物流業の現状と近未来の展望、物流不動産とは何か、ピンチをチャンスに変える方法などについて、具体的に事例を挙げ

物流不動産に関心のある物流事業者・不動産業者、物流不動産周辺事業者(太陽光発電など)や、物流不動産がチャンスと電など)を詳細に指摘した。

物流不動産ビジネスの創始者 大谷巖一氏は、参加者は、物流不動産ビジネス創始者の大谷氏の講義を熱心に聞いた。